

佐々町
子ども・子育てに関するアンケート調査
報告書（概要版）

令和6年12月

佐々町

目次

第1章 調査の概要.....	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の実施要領	3
3. 調査結果利用上の注意.....	3
第2章 調査結果.....	5
家族の状況.....	7
就労状況	9
幼稚園や保育園等の利用状況	11
平日の教育・保育について（家庭保育）	12
土日・祝日の教育・保育について	13
病気の際の対応について	14
一時預かりについて	15
町の子育て支援サービスの利用状況	16
小学校就学後の放課後の過ごし方	17
育児休業など職場の両立支援制度について.....	20
佐々町での子育てについて.....	21

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、令和7年度を開始年度とする「第3期佐々町子ども・子育て支援計画」策定に向け、子どもや子育て世帯等の生活実態や動向、既存データでは把握困難な潜在的なニーズ等を把握・分析し、計画の基礎資料とすることを目的としています。

2. 調査の実施要領

調査時期	令和6年10月28日（月）～11月15日（金）
調査対象者	佐々町在住の下記の保護者 ・家庭保育世帯 ・幼稚園、保育園 ・小学1～3年生
調査方法	・家庭：郵送による配布・回収及びインターネット調査 ・幼稚園、保育園、小学生：園及び学校配布・回収

対象者	配布数	有効回収数	有効回答率
家庭保育世帯保護者	97件	53件	54.6%
幼稚園・保育園保護者	547件	368件	67.3%
小学1～3年生 の保護者	465件	370件	79.6%

3. 調査結果利用上の注意

- ・各設問のnは、回答者数を表しています。
- ・回答率は百分比の小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
- ・2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、選択肢ごとの割合を合計すると100%を超える場合があります。
- ・回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、図表には「0.0」と表記しています。
- ・数表・図表は、スペースの都合上、文言等を省略している場合があります。

第2章 調査結果

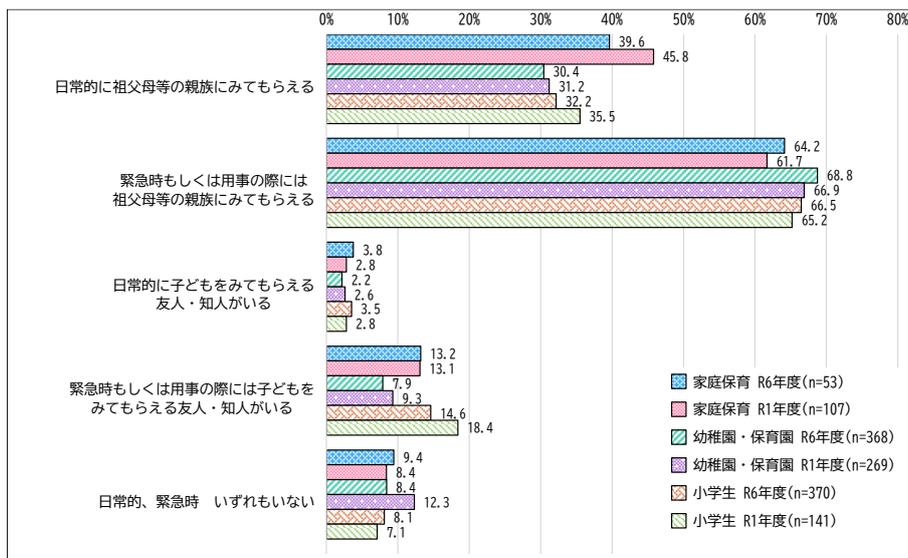
家族の状況

居住地域については、家庭保育及び幼稚園・保育園では「神田」、小学生では「口石」が最も高くなっています。

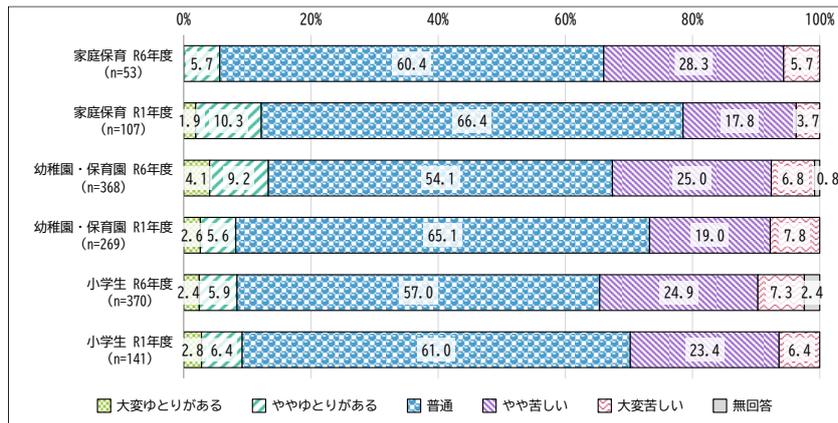
回答者については、いずれも7割以上が「母親」と回答しており、「父親」は家庭保育では2割台となっていますが、幼稚園・保育園及び小学生では1割以下となっています。また、子育て（教育を含む）を主に行っているのは、いずれも6割前後が「父母ともに」、3割が「主に母親」と回答しており、子育てについては両親が一緒に行っている割合が高くなっていますが、依然母親への負担が大きいことがうかがえます。また、今回の回答者の7割以上が母親であることから、本調査は主に「母親」の視点からみた子どもの生活状況や子育てに関する意識として考察することが妥当だと考えられます。

子どもをみてもらえる親族・知人の有無について、いずれも「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が6割を超えており、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が3割台となっていることから、比較的、身近なところに親族がおり、必要に応じて子育てに協力してもらえる環境にあることがうかがえます。

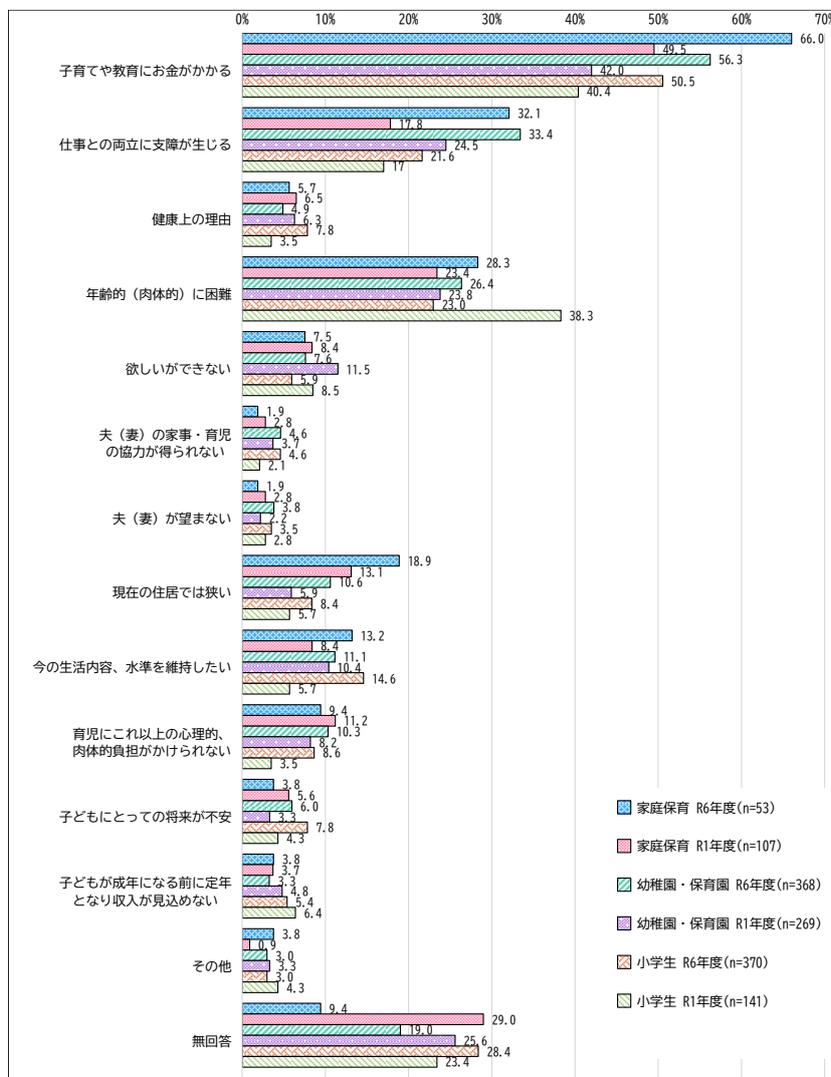
一方、いずれも約1割が「日常的、緊急時、いずれもない」と回答していることから、頼る人がいない、身近な人からの子育て支援を受けられない保護者が支援を受けやすい体制を整えていくことも必要です。



現在の家計の状況については、いずれも「普通」が最も高くなっていますが、3割は『苦しい』と回答しており、特に家庭保育では「やや苦しい」が前回調査と比べて10ポイント以上高くなっています。



また、理想の子どもの人数を実現できない最も高い理由として、どの保護者からも「子育てや教育にお金がかかる」があげられており、前回調査と比べても 10 ポイント以上高くなっています。佐々町の子育て環境や支援の満足度では、どの保護者も「町の子育て支援の取組」を上位にあげており、自由記述でも「商品券の配布や給食費の助成など、支援が手厚い」という意見が多くみられましたが、更なる子育て世帯への経済的負担感の軽減に向けた取り組みが求められています。

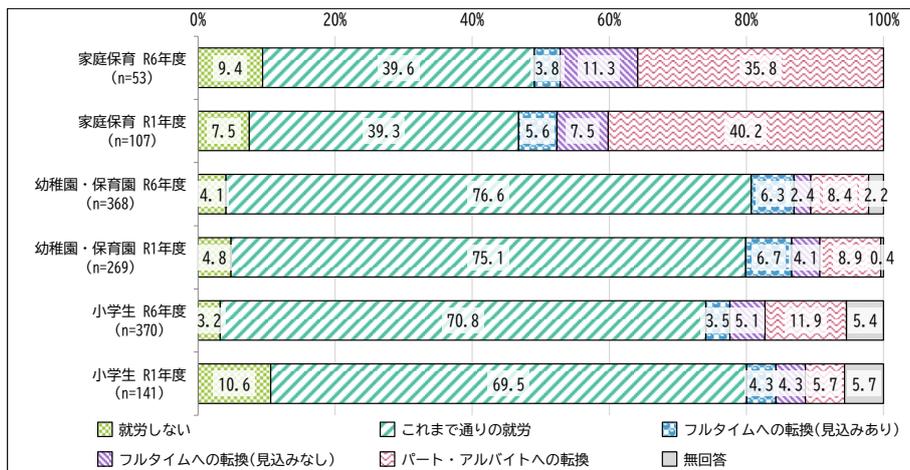


就労状況

保護者の就労状況について、父親は8割以上、母親は家庭保育：5割台、幼稚園・保育園及び小学生：8割以上が子育てをしながら就労していることから、今後も育児と仕事の両立が求められる状況であると考えられます。

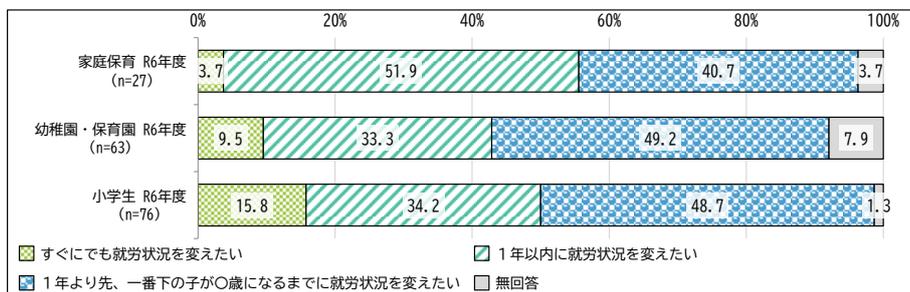
今後の就労希望について、母親では幼稚園・保育園及び小学生の7割が「これまで通りの就労」を希望すると回答しており、習い事や行事、園や学校からの急な呼び出しへの対応や扶養の範囲での就労等、現状の生活に合った就労の維持を希望する現状維持派の割合が高くなっています。また、家庭保育では「これまで通りの就労」希望が約4割となっていますが、3割は「パート・アルバイトへの転換」を希望していると回答しています。

【母親：今後の就労希望】



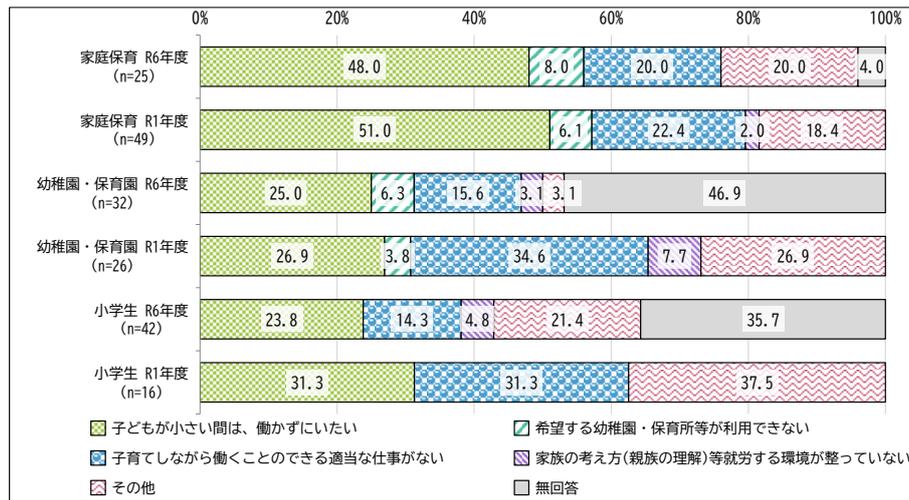
フルタイム及びパート・アルバイトへの転換希望者の母親に、転換時期について尋ねたところ、家庭保育では「1年以内に就労状況を変えたい」、幼稚園・保育園及び小学生では「1年より先、一番下の子が〇歳になるまでに就労状況を変えたい」が最も高くなっており、就労希望時の子どもの年齢について、家庭保育では「1歳」、幼稚園・保育園及び小学生では「7歳以上」が最も高くなっています。

【母親：転換時期】



就労していない理由について、母親ではいずれも「子どもが小さい間は、働かずにいたい」が最も高くなっていますが、2割前後が「子育てしながら働くことのできる適当な仕事がない」と回答していることから、今後も働きながら安心して子育てができるように環境づくりや細やかなニーズに対応できる支援体制の整備等が必要です。また、育児不安の軽減のためには家庭内あるいは地域の育児を支えるサポートの充実が重要であり、ワーク・ライフ・バランスが実現できるように、多様な働き方の選択、固定的役割分担意識等の解消、働きやすい職場環境をつくることが重要です。

【母親：就労していない理由】



幼稚園や保育園等の利用状況

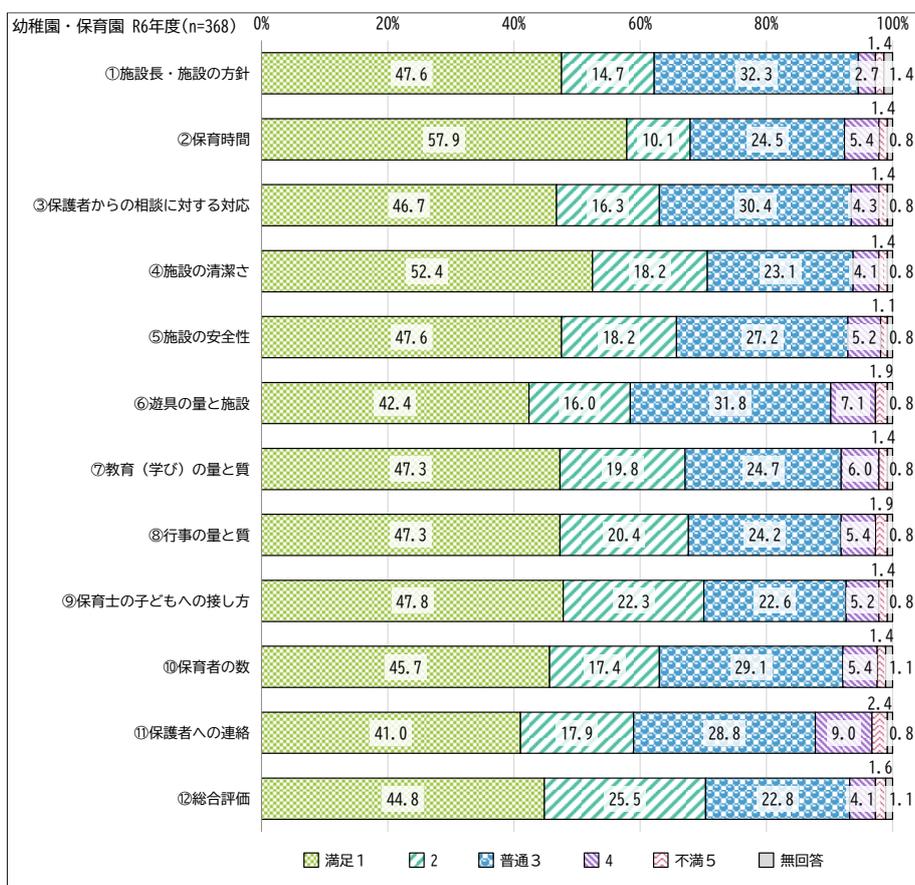
現在利用中の教育・保育事業については、5割が「保育所」、4割が「認定こども園」と回答しており、それ以外の事業の利用率は1割以下となっています。

また、現在利用中の施設の利用希望については、約9割が「現在のままでよい」と回答しており、現状維持派の割合が高くなっています。

平日に幼稚園や保育所等を利用している理由については、「保護者が現在就労しているため」が最も高く、8割を超えており、母親の就労率とほぼ同率となっています。

現在利用中の幼稚園・保育所等については、「佐々青い実幼児園」(39.4%)が最も高く、次いで「佐々神田保育園」(23.6%)、「佐々第2保育所」(13.9%)となっています。

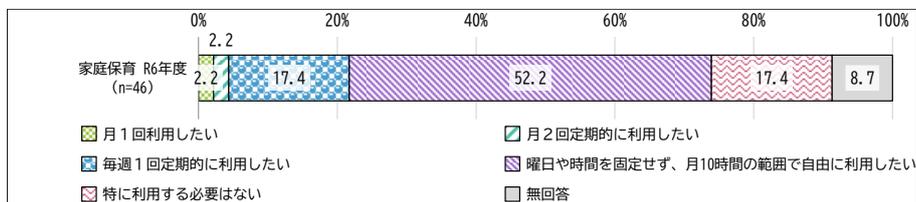
現在利用中の幼稚園・保育所等の満足度については、どの項目も「満足している：満足1＋満足2」が5割を超えており、特に「施設の清潔さ」「保育士の子どもへの接し方」「総合評価」は7割を超えています。



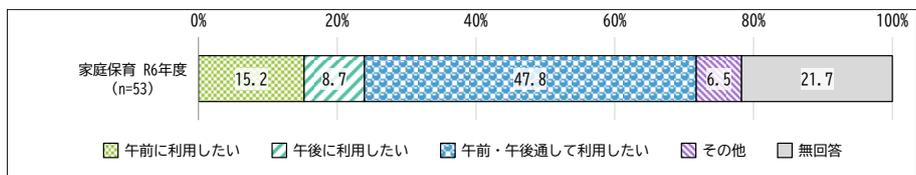
平日の教育・保育について（家庭保育）

現在、保育園を利用していない方でお子さんが0～2歳の方に、国が検討している「こども誰でも通園制度（仮称）」が創設された場合の利用状況について尋ねたところ、利用希望者は7割を超えており、約5割は「午前・午後通して利用したい」と回答しています。

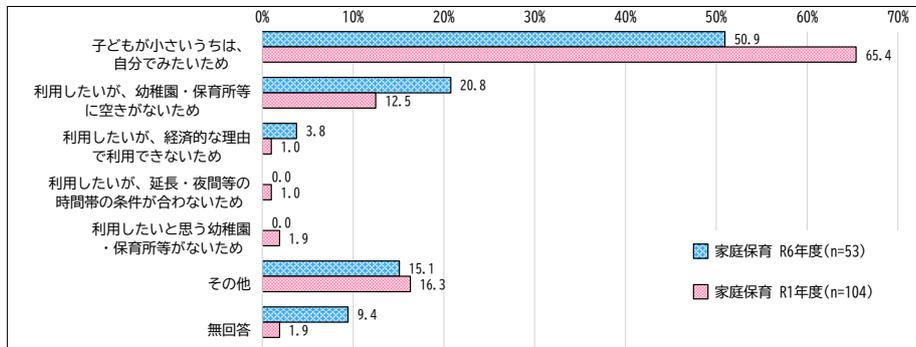
【利用希望】



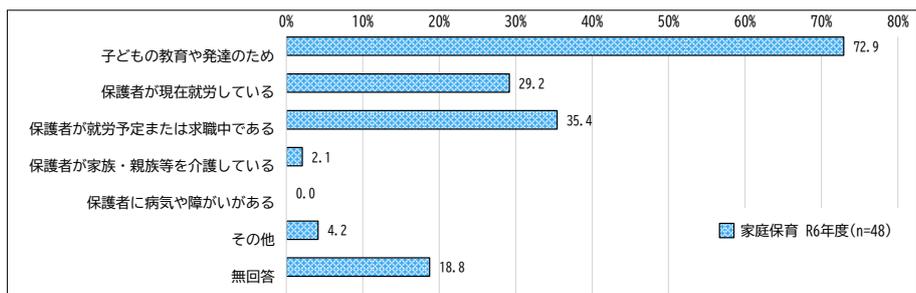
【利用したい時間帯】



幼稚園や保育所等を利用していない理由については、5割が「子どもが小さいうちは、自分でみたいため」、2割が「利用したいが、幼稚園・保育所等に空きがないため」と回答しています。また、9割が平日に教育・保育事業を「定期的に利用したい」と回答しており、利用したい事業としては「幼稚園」「認可保育所」「認定こども園」が4割を超えています。



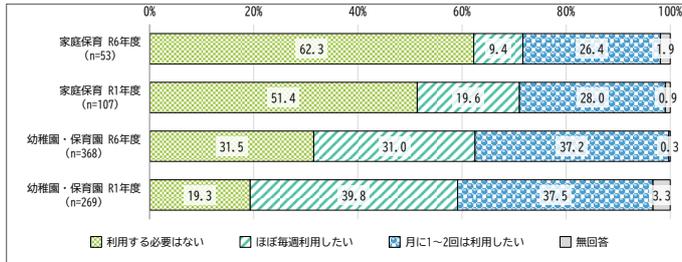
平日に定期的に教育・保育事業を利用したい理由については、7割が「子どもの教育や発達のため」、3割前後が「保護者や就労予定または求職中である」「保護者が現在就労している」と回答しています。



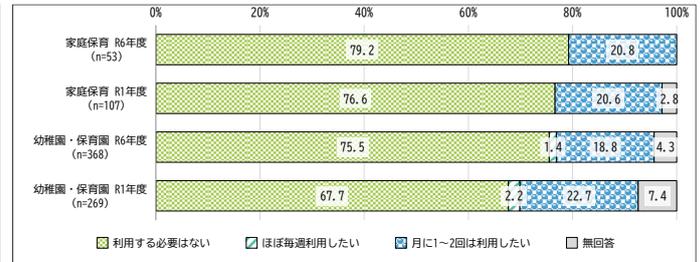
土日・祝日の教育・保育について

家庭保育では土日・祝日ともに「利用する必要はない」が最も高く、6割を超えています。約4割は土曜日は『利用したい』と回答しています。また、幼稚園・保育園では、日祝日は「利用する必要はない」が7割を超えているものの、土曜日の利用希望者が約7割となっています。いずれも前回調査と比べて土曜日は「利用する必要はない」が10ポイント以上高くなっていますが、依然日祝日に比べて土曜日の利用ニーズは高いことがうかがえます。

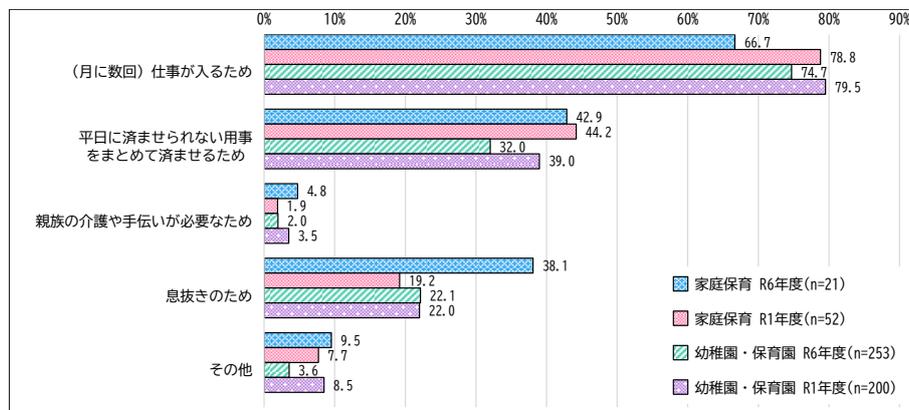
【土曜日】



【日曜・祝日】

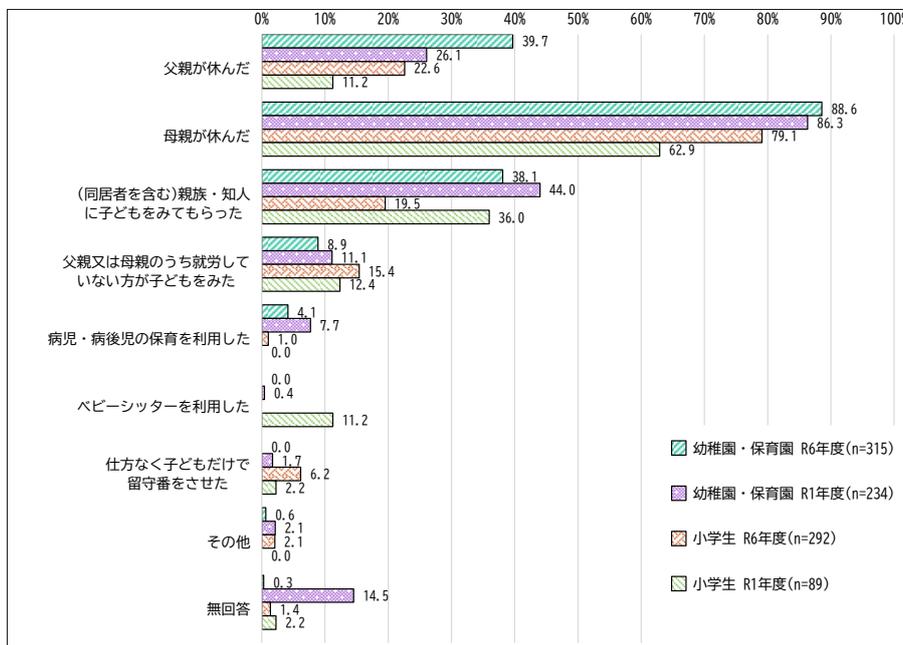


土日・祝日に幼稚園・保育所等を利用したい理由については、いずれも「(月に数回)仕事が入るため」(家庭：66.7%、幼保：74.7%)が最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(家庭：42.9%、幼保：32.0%)、「息抜きのため」(家庭：38.1%、幼保：22.1%)となっており、家庭保育では前回調査と比べて「(月に数回)仕事が入るため」が低く、「息抜きのため」が高くなっており、10ポイント以上差が生じています。



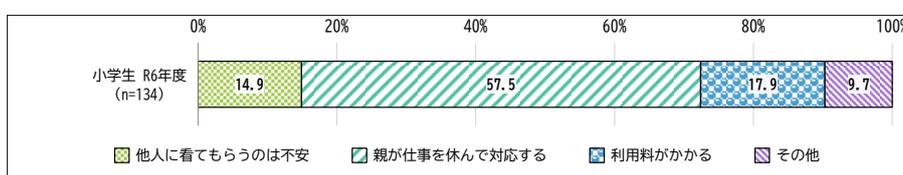
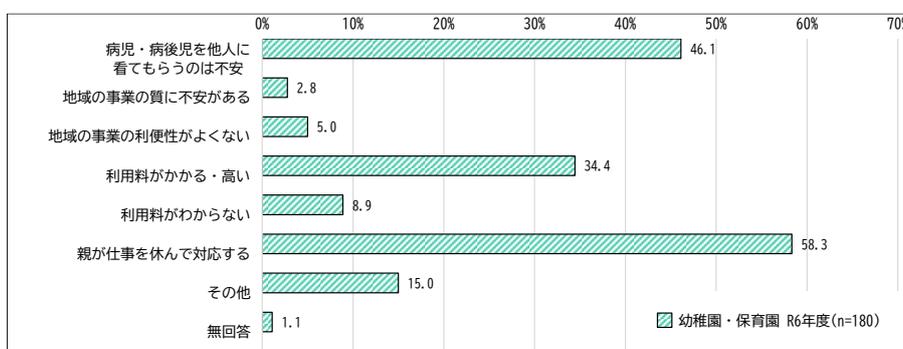
病気の際の対応について

病気等で教育・保育サービスの利用ができなかった経験については、幼稚園・保育園及び小学生ともに7～8割が「あった」と回答しています。行った対処方法としては「母親が休んだ」が最も高くなっていますが、前回調査と比べて「父親が休んだ」が10ポイント以上高くなっていることから、父親の育児参加への意識が高まってきていることがうかがえます。



両親どちらかが休んで対応したと回答した保護者に、病児・病後児のための保育施設等の利用希望について尋ねたところ、幼稚園・保育園及び小学生ともに「利用したいとは思わない」が5割を超えており、利用希望は3割台となっており、7割は「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」を利用したいと回答しています。

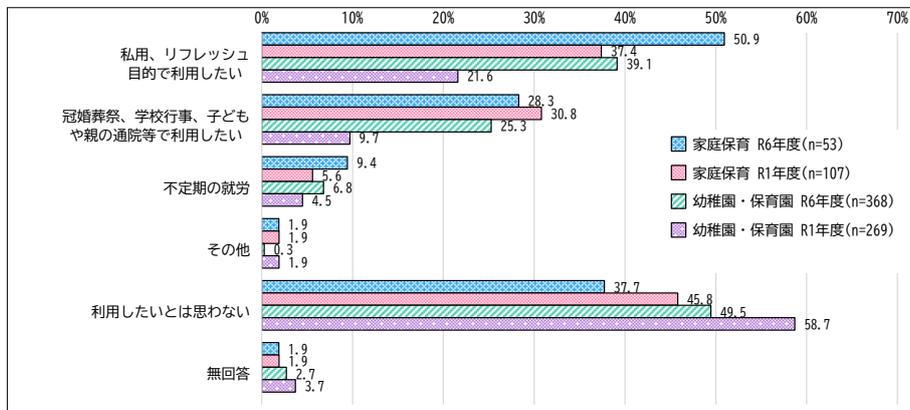
病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思わない理由としては、幼稚園・保育園及び小学生ともに「親が仕事を休んで対応する」が最も高く、次いで幼稚園・保育園では「病児・病後児を他人に看ってもらうのは不安」(46.1%)、「利用料がかかる・高い」(34.4%)、小学生では「利用料がかかる」(17.9%)、「他人に看ってもらうのは不安」(14.9%)となっており、病児・病後児を他人にみってもらう不安感、利用料金が発生すること等から、両親どちらかが仕事を休んで対応している状況がうかがえます。



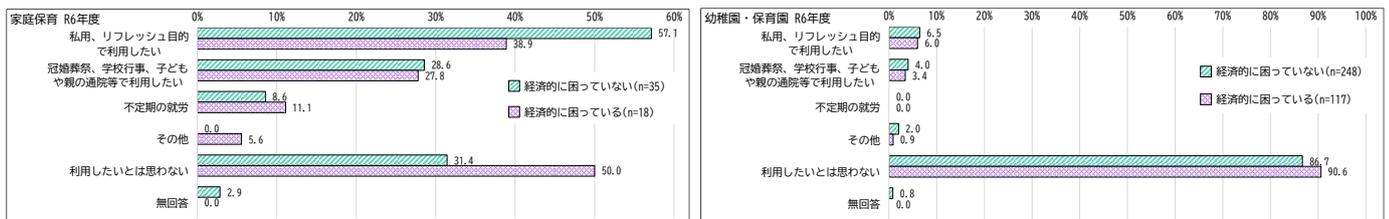
一時預かりについて

私用、親の通院、就労等の目的での一時預かりの現在の利用状況については、家庭保育及び幼稚園・保育園ともに8割が「利用していない」と回答しており、各サービスの利用率はいずれも1割以下となっています。

私用や冠婚葬祭、病気、就労等の目的での一時預かりの利用希望について、家庭保育では「私用、リフレッシュ目的で利用したい」が最も高く、5割を超えているものの、「経済的に困っている」世帯では「利用したいとは思わない」の割合が高くなっています。幼稚園・保育園では「利用したいとは思わない」が最も高くなっていますが、約4割は「私用、リフレッシュ目的で利用したい」と回答しています。また、前回調査と比べて、家庭保育及び幼稚園・保育園ともに「私用、リフレッシュ目的で利用したい」が10ポイント以上高くなっており、特にリフレッシュ目的での利用は罪悪感を持つ等利用しにくい傾向があると考えられるため、リフレッシュ目的での一時預かり利用における心理的なハードルを下げる工夫、利用者負担の軽減等が必要です。

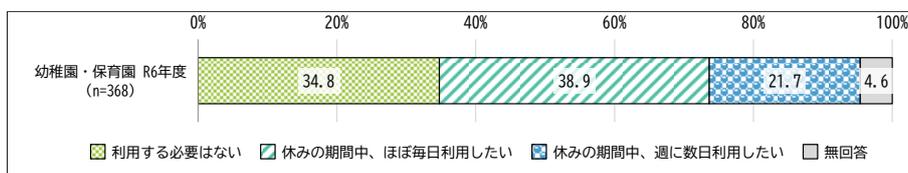


【1年間の対処方法×経済状況】



保護者の用事等で家族以外に預ける必要性については、家庭保育及び幼稚園・保育園ともに「利用する必要はない」が「あった」を大きく上回っています。

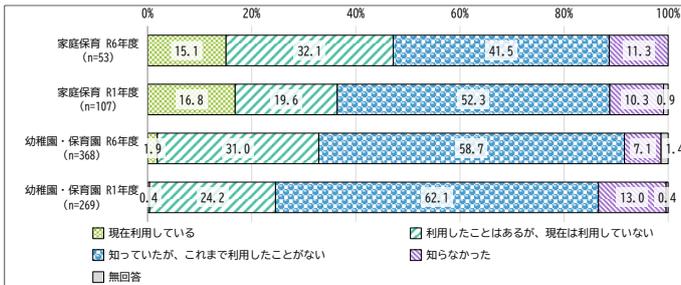
幼稚園・保育園の保護者に長期休暇期間中の幼稚園・認定こども園の利用希望について尋ねたところ、6割は『利用したい』と回答しており、長期期間中の利用希望のニーズが高いことがうかがえます。また、利用希望の理由については、約9割が「仕事が入る」、2割前後が「家事等の用事をまとめて済ませる」「息抜きのため」と回答しています。



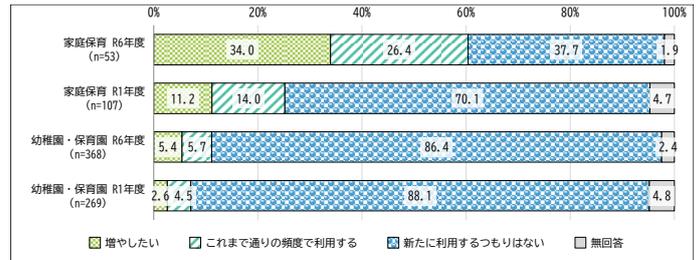
町の子育て支援サービスの利用状況

「ぷくぷくクラブ」の利用状況については、いずれも「知っていたが、これまで利用したことがない」が最も高く、「ぷくぷくクラブ」の利用経験者は3～4割となっています。また、今後の利用については、幼稚園・保育園では8割以上が「新たに利用するつもりはない」と回答していますが、家庭保育では3割が「増やしたい」と回答しており、前回調査と比べても「増やしたい」「これまで通りの頻度で利用する」が10ポイント以上高くなっていることから、家庭保育での利用希望意向が高くなっています。

【利用状況】

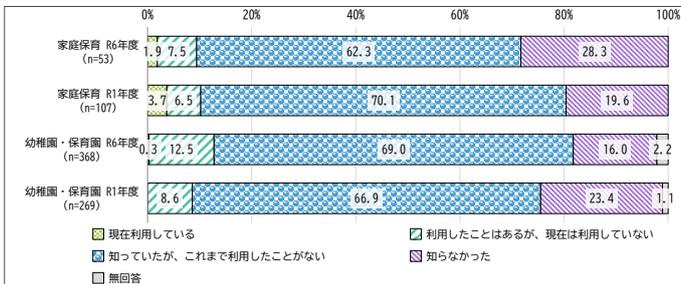


【利用意向】

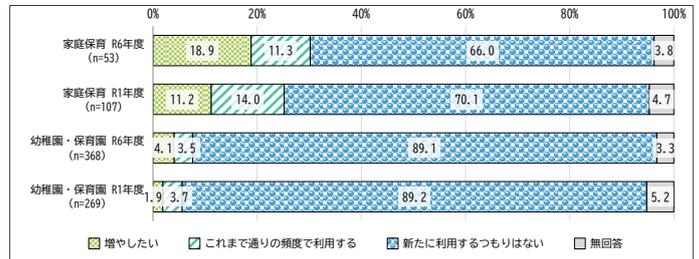


「ありす」の利用状況については、いずれも6割が「知っていたが、これまで利用したことがない」と回答しており、「ありす」の利用経験者は1割前後となっています。また、幼稚園・保育園では約9割が「新たに利用するつもりはない」と回答していますが、家庭保育では約2割が「増やしたい」と回答しており、家庭保育での利用希望意向が高くなっています。

【利用状況】



【利用意向】



自由記述では「ぷくぷくクラブ」「ありす」の立地についての意見、「ぷくぷくクラブ」の週末の開所希望、「ありす」の前日予約の厳しさを訴える意見等もあり、「ありす」については、家庭保育では約3割、幼稚園・保育園では約2割が「知らなかった」と回答しています。町民のニーズを把握し、時代の流れに沿ったサービスの提供、加えて実施内容や利用対象者・利用方法等まで含めた細やかな情報の周知に力を入れ、認知からサービス利用に至るまでのきっかけづくりを行い、より多くの方が気軽に利用できるようにしていくことが必要です。

小学校就学後の放課後の過ごし方

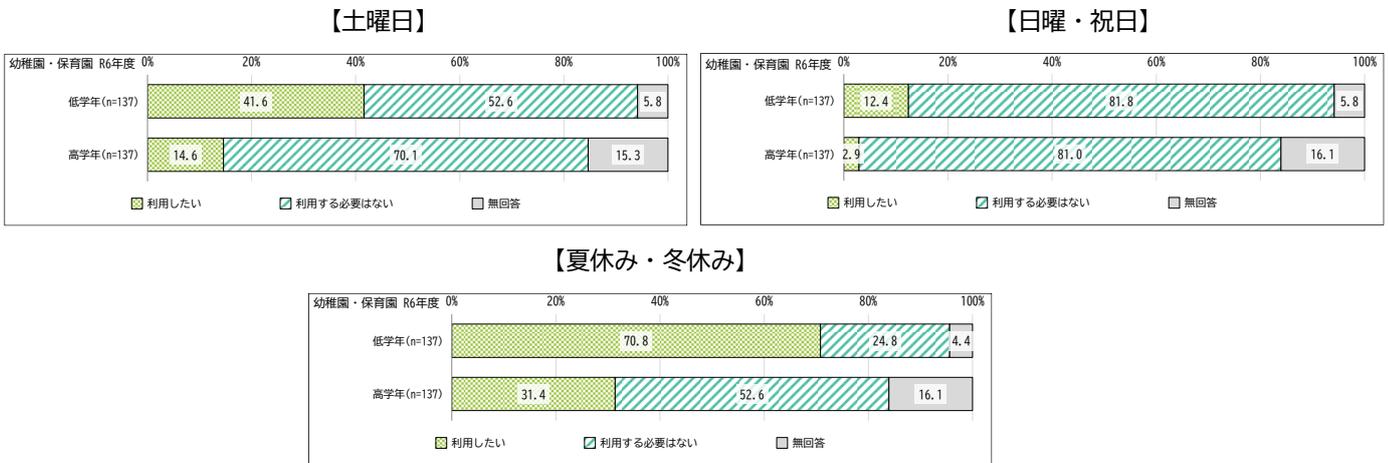
◆就学前（5歳以上）

放課後過ごさせたい場所について、小学校低学年（1～3年生）の間は「放課後児童クラブ（学童保育）」、小学校高学年（4～6年生）の間は「自宅」が最も高くなっています。また、「配偶者がいない」世帯及び「経済的に困っている」世帯では、低学年のうち「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望が高くなっています。

土曜日の利用希望について、いずれも「利用する必要はない」が「利用したい」を上回っていますが、低学年では4割が「利用したい」と回答しています。

日祝日の利用希望について、いずれも「利用する必要はない」が8割を超えています。

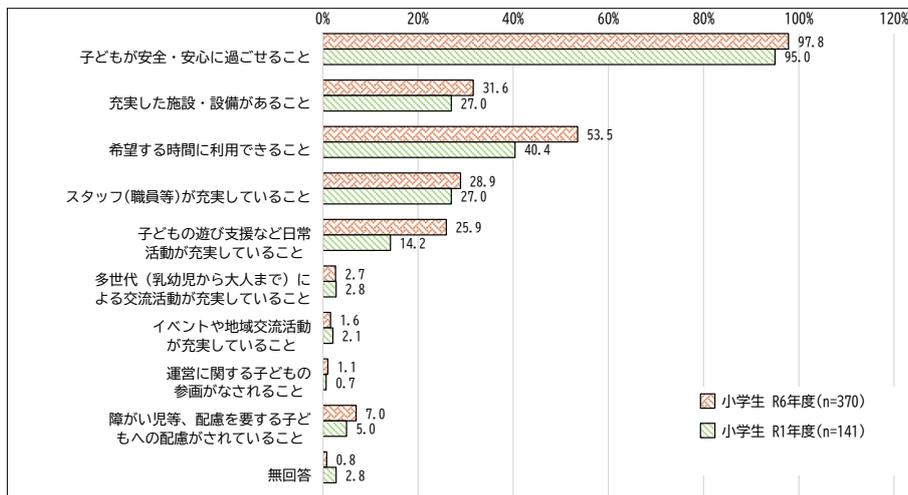
夏休み・冬休みの長期休暇期間中の利用希望について、高学年では5割が「利用する必要はない」と回答していますが、低学年では7割が長期休暇中の利用を希望していることから、土曜日及び長期期間中の低学年の利用希望のニーズが高いことがうかがえます。



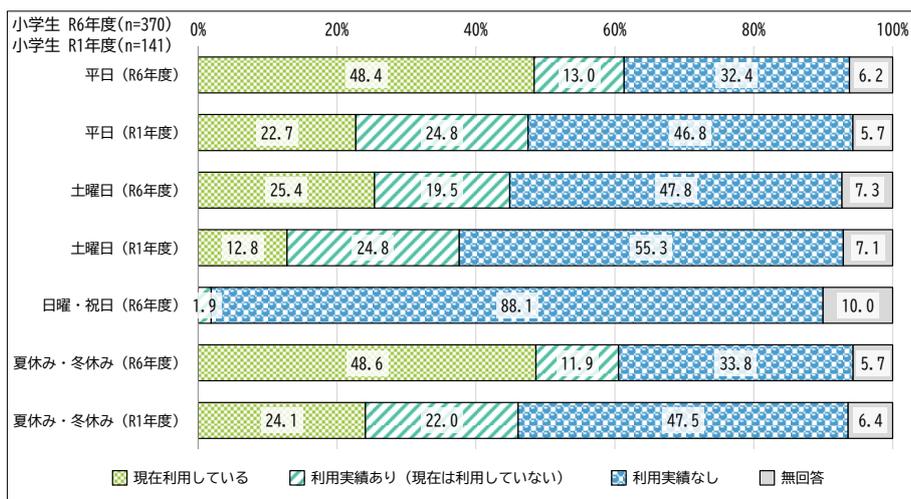
◆小学生

小学校低学年の放課後の過ごし場所について、4割が「自宅に家族といる」「放課後児童クラブ（学童保育）」、約3割が「習い事(クラブ活動、音楽教室など)」と回答しています。また、「配偶者がいない」世帯及び「経済的に困っている」世帯では、「放課後児童クラブ（学童保育）」の割合が高くなっています。

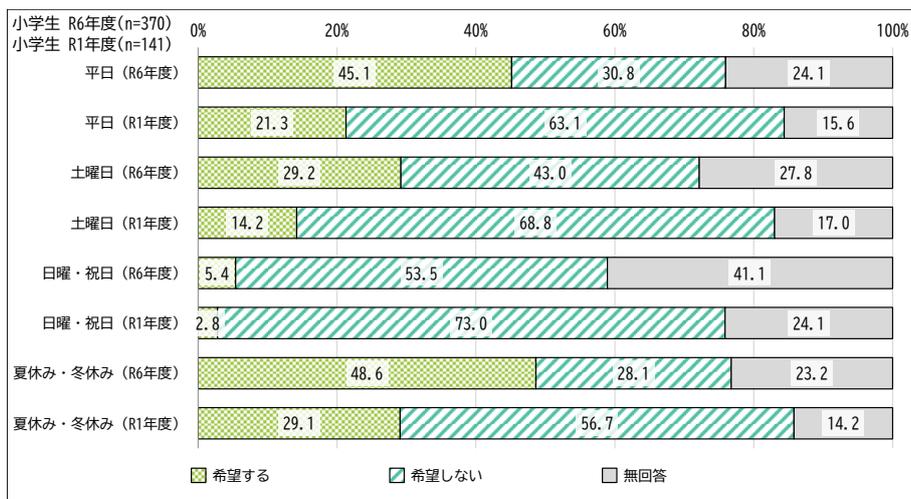
放課後過ごす場所として重視していることについては、9割が「子どもが安全・安心に過ごせること」、5割が「希望する時間に利用できること」、3割が「充実した施設・設備があること」と回答しており、安全性や希望時間での利用、充実した設備等が求められています。



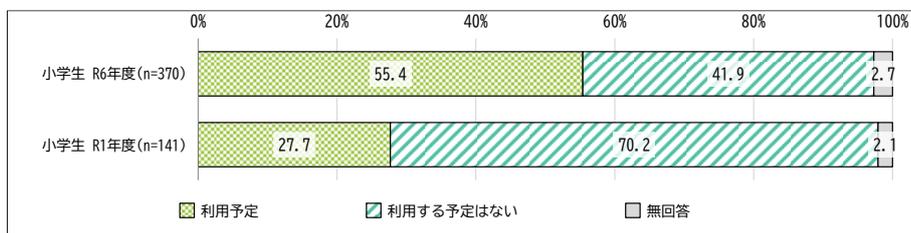
放課後児童クラブ（学童保育）の利用実績については、平日及び夏休み・冬休みでは約5割が「現在利用している」と回答していますが、土曜日及び日祝日では「利用実績なし」が最も高く、特に日祝日では約9割が「利用実績なし」と回答しています。



今後の利用希望について、平日及び夏休み・冬休みでは約5割が「希望する」と回答していますが、土曜日及び日祝日では4～5割が「希望しない」と回答しており、現在の利用状況と今後の利用希望はほぼ同率となっています。また、利用したい時間帯については、土曜日の希望終了時刻は現状より遅い時間帯のニーズが高くなっています。

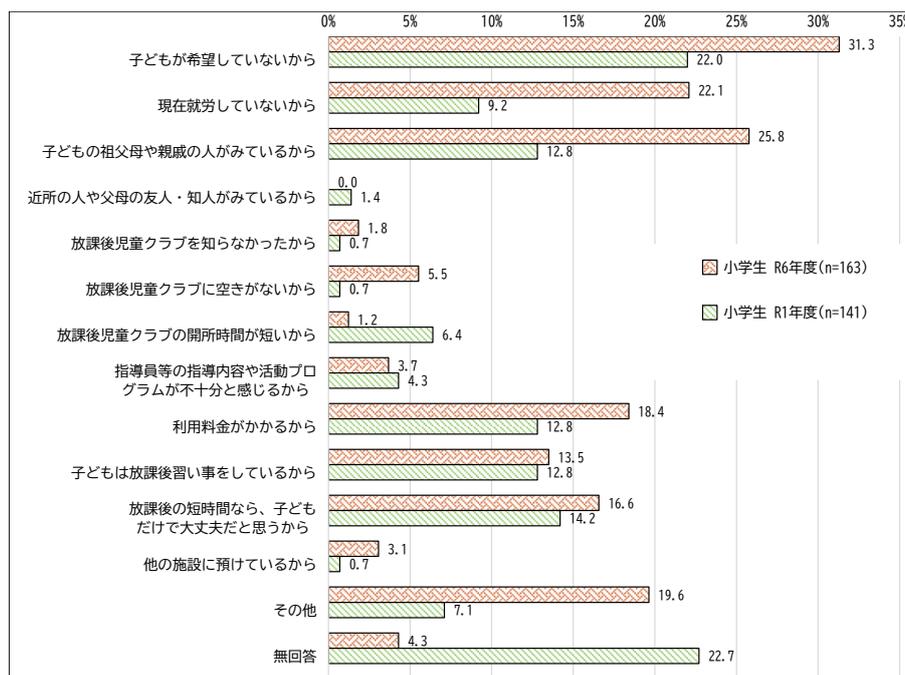


放課後児童クラブ（学童保育）の利用予定については、「利用予定」が「利用する予定はない」をやや上回っていますが、前回調査と比べて「利用予定」が27.7ポイント高くなっていることから、今後も共働き世帯の増加に伴い、放課後子どもが安心して過ごせる居場所を求める保護者の関心も高くなっていることから、利用予定者が増加傾向になることが考えられます。また、利用予定期間について、開始時期では「1年生」が最も高く、9割を超えています。終了時期では「3年生」「4年生」「6年生」がそれぞれ2割台と分散しています。



放課後児童クラブ（学童保育）に望むサービスについては、「放課後児童クラブ（学童保育）と家庭との連絡や連携」「習い事（英語や習字など）」が2割を超えています。自由記述では「放課後児童クラブ（学童保育）と家庭との連絡や連携」について、「LINE での返信もすぐであり、利用しやすい」「今まで通りでいい」という好意的な意見も多くみられますが、現状に満足しつつも、子どもの様子やトラブルに関する情報提供も求められています。また、「習い事（英語や習字など）」については、特に「習字」「英語」「そろばん」「運動」の習い事の充実と送迎システムを望む声があげられています。

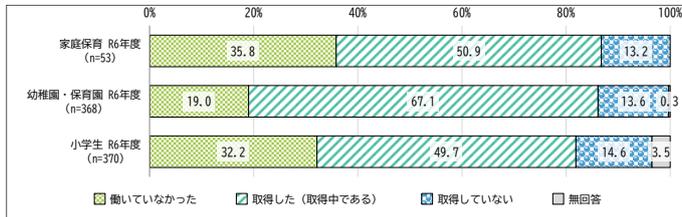
放課後児童クラブ（学童保育）を利用しない理由については、3割前後が「子どもが希望していないから」「子どもの祖父母や親戚の人がみているから」、2割が「現在就労していないから」と回答しています。



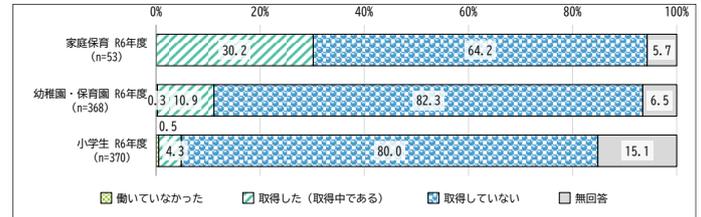
育児休業など職場の両立支援制度について

育児休業の取得について、母親では約5割～6割が「取得した（取得中である）」と回答していますが、父親ではいずれも「取得していない」が最も高く、特に幼稚園・保育園及び小学生では8割を超えています。

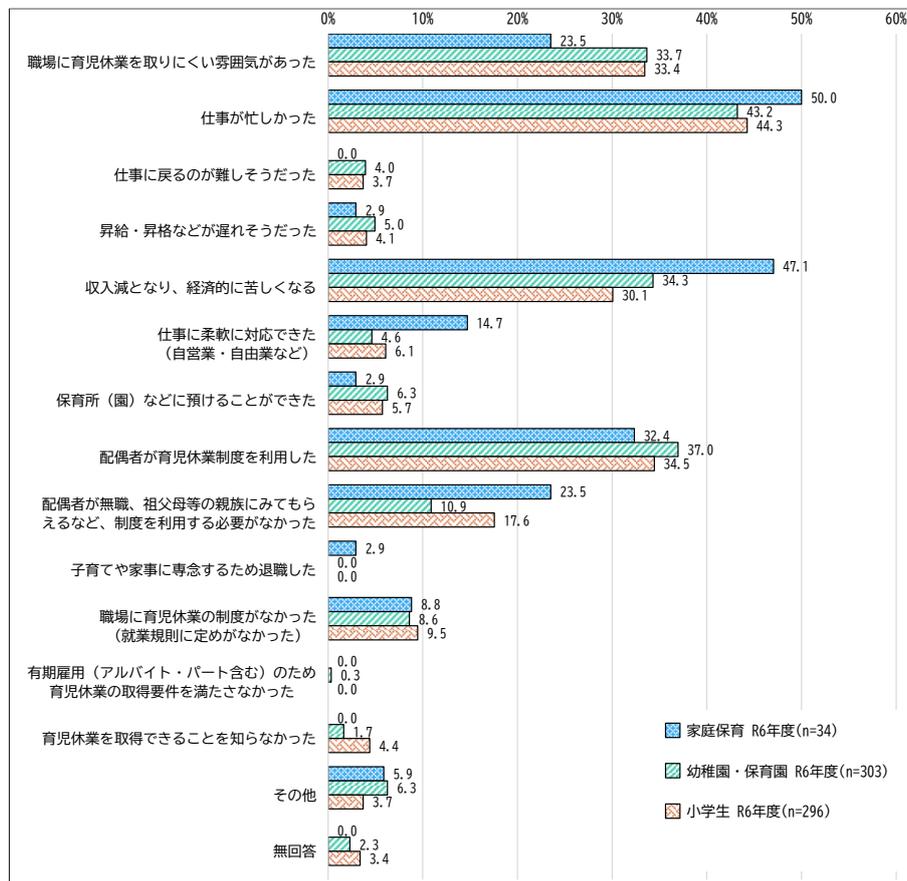
【母親】



【父親】



育児休業を取得していない理由について、父親ではいずれも「仕事が忙しかった」が最も高く、次いで、家庭保育では「収入減となり、経済的に苦しくなる」、幼稚園・保育園及び小学生では「配偶者が育児休業制度を利用した」となっています。

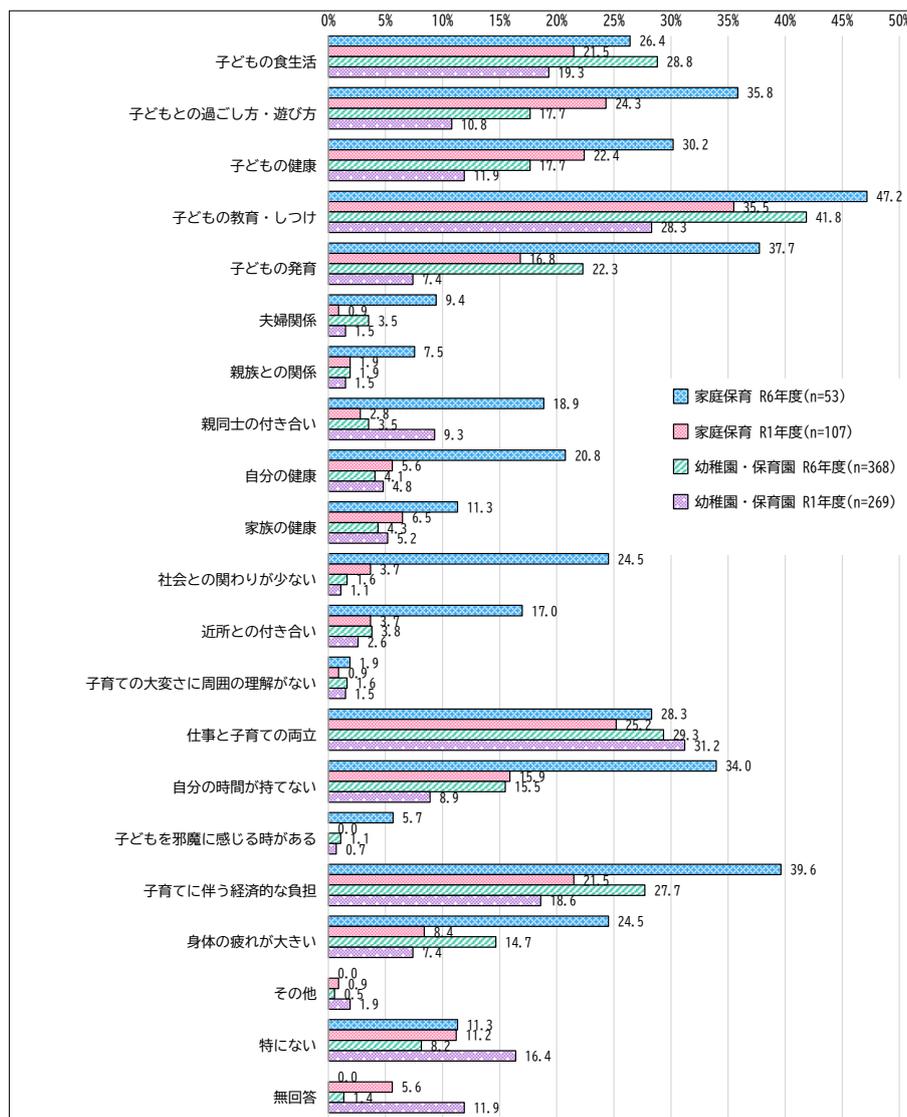


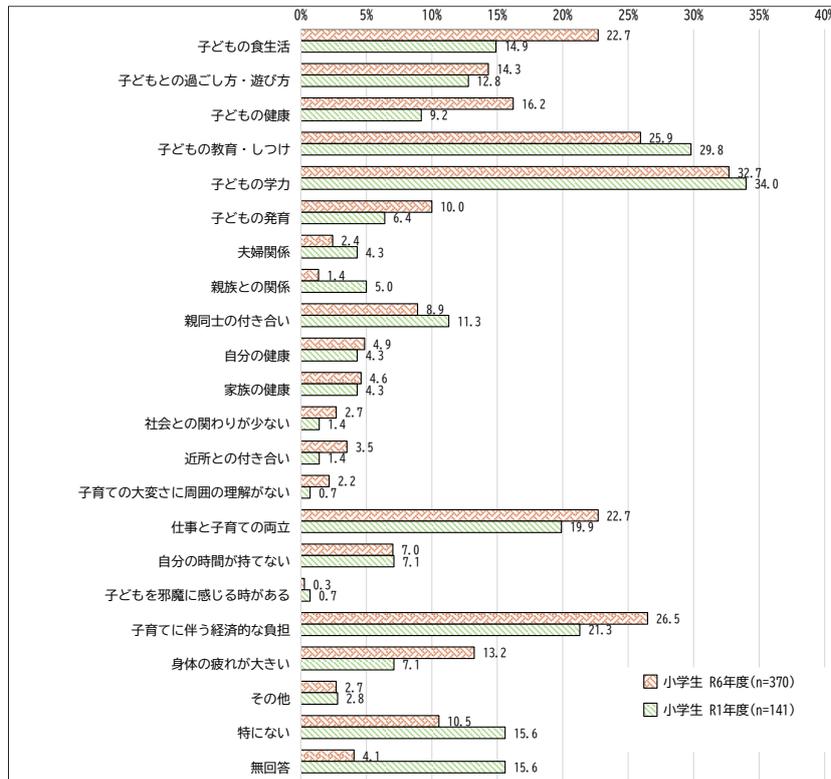
家庭保育世帯では、父親の育児休業の取得率が3割程度となっているものの、依然、母親の取得率の割合が高くなっているため、育児休業の取得条件の緩和や勤務軽減等の措置、男性が育児休業を取得しやすい雇用環境整備、職場の理解や協力体制を整えることが必要です。

佐々町での子育てについて

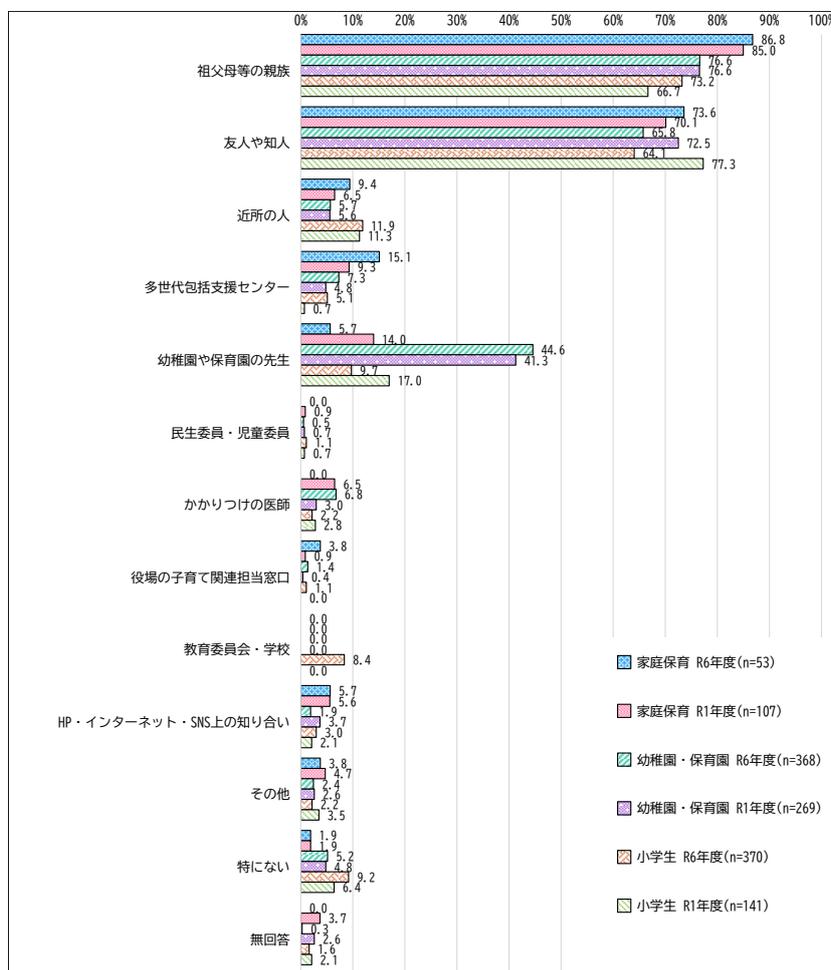
◆子育てに関する悩み・相談相手/子どもの成長で大切なこと

子育てをしていて感じる悩みについて、家庭保育及び幼稚園・保育園では4割が「子どもの教育・しつけ」、小学生では3割が「子どもの学力」と回答しています。また、家庭保育では「子どもとの過ごし方・遊び方」「子どもの健康」「子どもの発育」「自分の時間が持てない」「子育てに伴う経済的な負担」も3割を超えています。また、幼稚園・保育園及び小学生の「配偶者がいない」世帯では「配偶者がいる」世帯と比べて、「自分の時間が持てない」割合が高くなっています。





相談相手については、いずれも6割以上が「祖父母等の親族」「友人や知人」と回答しており、幼稚園・保育園では「幼稚園や保育園の先生」が4割を超えています。いずれも公的な相談場所等に相談している割合は低くなっています。



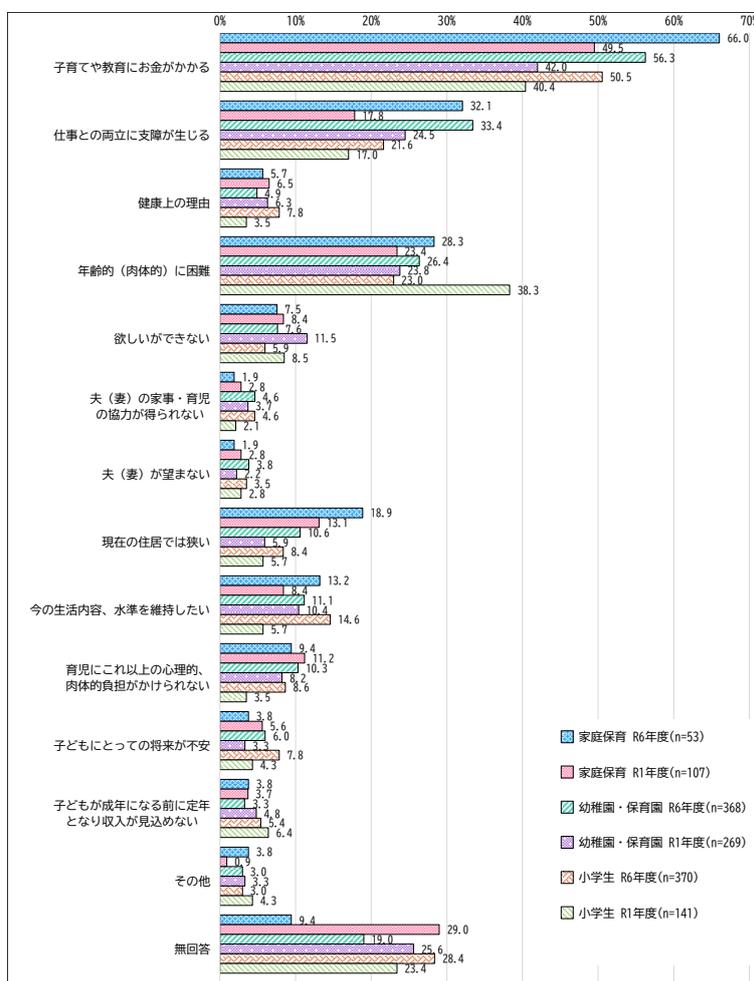
子どもが成長する上で大切だと思っていることについて、小学生では約9割が「友達との関係」、約8割が「家族とのふれあい」、約5割が「学校の勉強」と回答しています。

子育てに関する悩みは多岐にわたり、妊娠期から成人するまで長期的であり、月齢・年齢が進むにつれ、悩みの内容も変化していくため、保護者のニーズの把握と子どもの成長に合わせた情報の周知が必要です。相談することは難易度が高く、複数の要因が複雑に絡まっている可能性や相手に伝わるように言語化しなければという負担感等から、気軽に相談をすることが難しいと考える子育て世代も多いようです。幼稚園・保育園の「配偶者がいない」世帯では「配偶者がいる」世帯に比べて、「親同士の付き合い」に悩んでいる割合も高いことから、オンライン等で気軽に悩みを相談できるような相談体制を整えることで保護者の孤立化を防ぎ、育児不安を抱えた人の発見や児童虐待などの未然防止にもつながるのではないかと考えます。また、経済的に困窮している世帯では、子どもが成長するにつれて経済的負担を訴える声が多いことから、不安軽減のためには経済支援に加え、さまざまな支援等を積極的に周知していくことも必要です。

◆現在・今後・理想の子どもの人数

理想とする子どもの人数の平均は、家庭保育では「2.5人」、幼稚園・保育園では「2.8人」、小学生では「2.9人」となっており、いずれも「理想」と比べて「現在」の子どもの人数が低くなっています。

理想とする子どもの人数を実現できない理由については、いずれも「子育てや教育にお金がかかる」が最も高く、次いで、家庭保育及び幼稚園・保育園では「仕事との両立に支障が生じる」、小学生では「年齢的（肉体的）に困難」となっています。

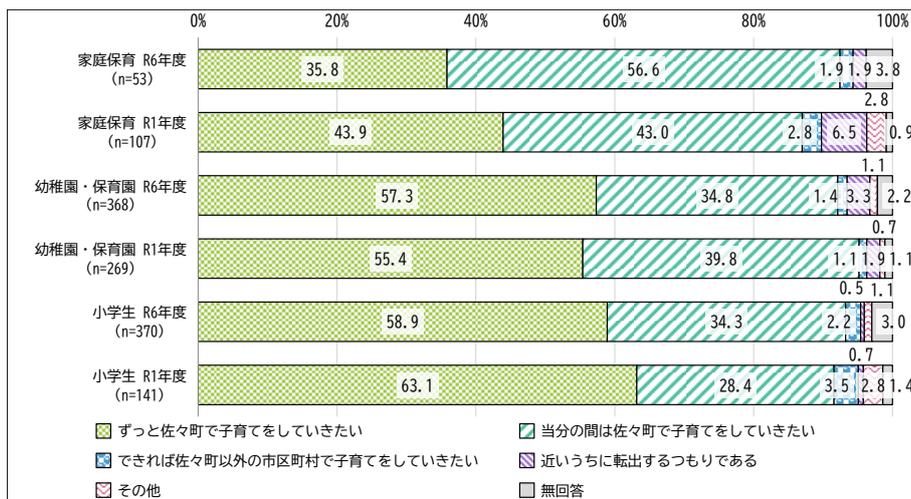


◆佐々町の子育て環境や支援についての満足度

佐々町の子育ての環境や支援について、満足度が高い（満足1＋満足2）のは、いずれも「町の子育て支援の取組」「町立図書館」となっており、家庭保育では「町の相談窓口」、幼稚園・保育園及び小学生では「公園などの外の遊び場」も高くなっています。

また、いずれも「屋内の遊び場」「交通機関（バス、電車など）」、家庭保育及び幼稚園・保育園では「授乳室やおむつ交換台などの設備」、家庭保育では「近所づきあい（協力、相談）」、小学生では「安全性（事故や犯罪など）」の『不満足』が『満足』を上回っています。

今後も佐々町で子育てをしていきたいかについては、いずれも9割は『佐々町で子育てをしていきたい』と回答しており、子育て世帯は今後も佐々町で子育てをしていくことを望む割合が高くなっています。



佐々町の子育て環境や支援への満足度及び定住希望の割合も高くなっていますが、近年の気候変動に伴い、猛暑日の日数が年々増加傾向にあり、集中豪雨の発生等も生じていること、時代に流れに伴い、ゲーム機器等の普及により子どもの居場所が室内に変化していることから、特に「屋内の遊び場」については改善を求める意見（自由記述）が多く寄せられています。今回の調査を踏まえ、子ども達や子育てをする保護者等のニーズを把握し、子どもが健やかに育ち、安心して産み育てられる環境づくりをすることが必要です。

